

昭和四年
九月 駒ヶ岳輕石漂着報告

釧路測候所報告

釧路國管内海岸の所々へ今回輕石漂着せるを發見候間左に其狀況を報告候

管内厚岸床潭村並に同郡末廣村及び白糠郡白糠村等の海岸各々一部に於て輕石の極めて僅少ながら點々漂着し注意し初めて認むるものにして本月四日より六日に於て實地踏査し發見せるなり。

右は去る六月十七日本道西部駒ヶ嶽噴火し其當時本道の南東洋上へ多數に噴出物降下したるを聞たるが常に襟裳岬附近の沖合へ出漁なしある發動器漁船員の談に依れば其頃より輕石の海上所々に漂流ある事夥しきを度々實見せりと云ふ而して今回漂着のものは小粒多く偶々大なるものも徑十糎以内として藻又は屑昆布類に混じり或は點々砂上に各々打ち上げられあり一見最近の漂着を現しあり試みに附近昆布採收業者に付承合せるに二十日(九月一日)以後見たる旨語り居り尙ほ前記末廣村の宇チンベ沿岸に於ては沖合四五十間にて藻等と共に所に海面に浮流あるを見たる旨傳へたり而して漂着の期日は尙ほ目下引續きあるものゝ如き其最初としては去る八月三十一日午後より翌九月一日に亘り風位南南東即ち海上よりの風稍々強吹し當時海鳴著しく沿岸波浪激しかりしを以て其時に所々漂着せるものと推測さるゝなり。